

# たまねぎレポート【346号】



平成28年8月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

7月の天候は、東・西日本、沖縄・奄美は高温、北日本は平年並み。降水量は、東日本の太平洋側と東北地方は少なかった。北海道では前線や低気圧の影響で降雨が多く、各所で大雨となった。日照時間は、北日本の日本海側、西日本、沖縄・奄美で多く、北日本の太平洋側と東日本は平年並みであった。

8月の天候は、異常続きで東・西日本は猛暑で少雨、北海道は盆明けに台風7号、11号、9号と連続して接近・上陸し、降水量は平年比240%に達し、河川の氾濫、田畑の水

没・冠水で農作物に大きな被害が発生している。更に、停滞している大型台風10号の影響が懸念されている。

気象庁が発表した9～11月の3カ月予報では、此の期間の平均気温は、全国的に高い確率50%。降水量は、北日本と沖縄・奄美で平年並み亦は多い確率はともに40%。月別予報は次の通り。

9月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。平年に比べ曇りや雨の日が多い。東日本と西日本の日本海側も数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では平年と同様に晴れの日が多い。

10月、全国的に、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側、西日本では平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では平年に比べ晴れの日が少ない。

11月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多い。東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込み。

## 需要(市場)の動き

### 野菜の概況

7月の建値市場の野菜の入荷は、まちまちで前年を下回る市場が多かった。全国的には、葉物類が前年比増で果菜・根菜類が前年比減であった。平均単価は総ての市場で前年を下回った。市場別では、札幌市場は前年比94%の入荷で、平均単価はkg¥225前年比96%。東京市場は前年比98%の入荷で、平均単価はkg¥265前年比97%。名古屋市場は前年比98%の入荷で、平均単価はkg¥252前年比96%。大阪本場は前年比104%の入荷で、平均単価はkg¥257前年比96%。福岡市場の入荷は前年比104%、平均単価はkg¥197で前年比97%となっている。

玉葱の7月の入荷は市場毎にかなりのバラツキはあったが、総体的に需給は品不足傾向が強まり、市況は日毎に上昇した。月後半は不作の府県産地の出荷が終盤を迎え、北海物の早出しまでは端境期となり、品不足が深刻化し、市況は異常高値が続いた。平均単価は高値であった前年を上回り、多くの市場で有史以来の高値を更新した。市場別では、札幌市場の入荷は1,877トン前年比98%で、平均単価はkg¥153前年比97%。東京市場は8,086トン前年比88%の入荷で、平均単価はkg¥171前年比105%。名古屋市場は3,516トンの入荷で前年比96%、平均単価はkg¥159前年比103%。大阪本場は3,197トンの入荷で前年比89%、平均単価はkg¥187前年比123%。福岡市場は3,102トンの入荷で前年比115%、平均単価はkg¥148前年比106%となっている。府県産は不作で裾物の発生率が高く、何れの市場も品質に依る価格差が拡大した。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の7月の販売量は、78,826トン前年比101%(前月比101%)。平均単価はkg¥162前年比96%(前月比98%)となっている。キャベツ、レタス、ハクサイ等葉物野菜の生育が順調で、値下がりが目立った。販売量が前年比増となった品目はキャベツ、レタスが前年比107%、ジャガイモが前年比105%など8品目。前年比減は、サトイモが前年比80%、トマトが前年比90%、ダイコンが前年比93%など6品目。価格が前年比高であったのは、キュウリがkg¥286で前年比117%、タマネギがkg¥163で前年比111%。トマトがkg¥311、ニンジンがkg¥139、ダイコンがkg¥102でこの3品目がいずれも前年比109%で、前年比高は7品目。前年比安となっているのは、レタスがkg¥105で前年比70%、ハクサイがkg¥57で前年比73%、バレイショがkg¥172で前年比79%など7品目となっている。

東京都中央卸売市場の7月の野菜の入荷は、119,621トン前年比98%(前月比106%)であった。主要品目で前年比増となったのは、レタスが前年比111%であったのを始め、ナマシイタケが前年比105%、キャベツが前年比104%など4品目(前月も4品目)。前年比減となったのは、タマネギ、トマトが前年比88%であったのを始め、ダイコン、

トマトが前年比88%、ホウレンソウが92%などの11品目(前月は3品目)。平均単価はkg¥265前年比97%(前月比102%)で、上旬¥266、中旬¥276、下旬¥253で月前半は堅調で後半は軟化した。主要品目で前年比高は、キュウリが前年比121%、ニンジンが前年比112%、ダイコンが前年比111%など7品目(前月は8品目)。前年比安は、ハクサイ、レタスが前年比66%、バレイショが前年比76%など8品目(前月は5品目)であった。

### 東京都中央卸売市場の7月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	119,621	97.6	94.7	265	96.6	98.5
た ま ね ぎ	8,086	87.7	96.3	171	104.6	117.1
キ ャ ベ ツ	16,232	104.0	106.2	73	80.1	77.7
レ タ ス	10,020	110.9	111.5	130	65.9	91.6
だ い こ ん	8,283	87.5	105.1	119	110.7	128.0
ト マ ト	7,861	88.3	86.2	322	108.5	108.4
き ゆ う り	6,835	93.3	93.3	324	120.8	121.4
に ん じ ん	6,133	89.7	81.9	150	111.8	114.5
は く さ い	5,783	100.7	95.8	54	66.1	75.0
ば れ い し ょ	5,613	99.8	73.0	173	75.6	83.6
か ぼ ち ゃ	2,700	100.6	81.3	212	84.8	105.5
な が い も	1,082	87.1	102.5	414	113.0	100.5
に ん に く	274	93.8	78.7	992	97.5	107.7
れ ん こ ん	206	91.5	123.4	948	104.5	70.2

## 玉葱の概況

### 東京市場

東京都中央卸売市場の7月の玉葱の入荷は、8,086トン前年比88%(前月比97%)で品薄傾向であった。7月は主力となる佐賀、兵庫物の入荷が激減したが、愛知を始め関東の群馬、栃木物が大幅増となったことや富山、新潟などの入荷が増加した。輸入物も1,110トンで前年比121%と増加した。主力は兵庫物で3,160トンの入荷で前年比82%、占有率は39%で前年比3ポイントダウン。佐賀物は811トンの入荷で前年比33%、占有率は10%で前年比17ポイントダウン。香川物は876トンの入荷で前年比76%、占有率は11%で前年比1ポイントダウン。中国物の入荷は776トン前年比116%、占有率は10%で前年比3ポイントアップ。平均単価はkg¥171前年比105%(前月比117%)で品薄高が続いた。旬別では上旬が¥154(前年比100%)、中旬が¥178(前年比106%)、下旬が¥180(前年比109%)右肩上がりに推移した。産地別の月平均単価は、兵庫物がkg¥206(前年比114%)、佐賀物がkg¥132(前年比84%)、香川物がkg¥199(前年111%)、中国物はkg¥78(前年比116%)となっている。佐賀物は品質劣化と裾物が多く前年価格を下回った

8月に入り、佐賀を始め、愛知、栃木、新潟などの産地も入荷が減少。兵庫(淡路)物中心の販売となり、品薄高が続く北海道物の入荷が待望された。盆明けからは北海物の入荷が増加し、市況は沈静化すると予想していたが、台風の影響で入荷は少なかったものの、高値悩みで荷動きが鈍く、品薄感は薄れ気味となった。今週からは北海物中心の販売に移行したが、台風の影響で入荷は増えず、潤沢な入荷を想定して、量販店向けの大口の事前契約は、値頃の¥2,500を基準とした値決めが多く、入荷が不安定で相場高が続いているので、対応に苦労している。

### 名古屋市場

名古屋中央卸売市場の7月の玉葱の入荷量は、3,516トン前年比87%(前月比85%)であった。主力は愛知物から兵庫物に移行した。兵庫物の入荷は2,288トン前年比82%、占有率は65%で前年比12ポイントダウン。愛知物は560トン前年比100%の

入荷、占有率は16%で前年比1ポイントアップ。北海物は376トンの入荷で前年比315%、占有率は11%で前年比7ポイントアップ。中国物は190トンの入荷で前年比211%、占有率は5%で前年比3ポイントアップ。平均単価はkg¥159前年比103%（前月比138%）。産地別では、兵庫物はkg¥206前年比115%。愛知物はkg¥80前年比113%、北海物はkg¥45前年比85%。中国物はkg¥80前年比96%であった。

8月に入り、淡路物オンリーの販売となったが、産地の希望値が高く、買参人は高値を嫌い、買い気が振るわず荷動きの鈍化傾向が続いた。待望の北海物の入荷も少量且つ不安定で、盆明けから本格化すると期待していたが、相次ぐ台風の影響で入荷の後ズレが続き、品薄高相場となり、現在も後遺症が続いている。此の先も台風10号の進路次第では、入荷の後ズレ傾向が続き、正常復帰は9月になる。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の7月の玉葱の販売量は、3,197トン前年比89%（前月比108%）で減少傾向であった。佐賀物が前年比8%に激減したが、長崎、和歌山、大阪などが増加したほか、新たに富山、栃木、福井物等が入荷し、産地は15道府県に及んだ。主力は兵庫（淡路）物で2,478トンの入荷で前年比90%、占有率は78%で前年比1ポイントアップ。長崎物が295トンの入荷で前年比113%、占有率は9%で前年比2ポイントアップ。和歌山物が100トンの入荷で占有率は3%前年は入荷なし。平均単価はkg¥187前年比123%（前月比118%）で右肩上りに上昇した。産地別の平均単価は、高安まちまちで「プライスリーダー」の兵庫物はkg¥209で前年比112%、長崎物は加工用でkg¥48前年比60%、和歌山物はkg¥184。因みに佐賀物はkg¥130前年比93%であった。

8月に入り、淡路物の独断場となり、品薄高傾向が続き特にM・Sの引き合いが強く、盆前にはMの高値が20kg¥6,500に達した。盆前に少量の北海（岩見沢）物が入荷したものの、乾腐病が散見され品質に不安感を招いた。盆明けからは北海物の入荷が増加傾向となり、淡路物も値下がりに転じた。下旬には北海物主力の販売に移行し、入荷の安定化とともに相場は沈静化すると見られていたが、相次ぐ台風の影響で、北海物の

入荷が不安定となり、乱相場の状態が続いている。今年の淡路物は品質劣化が早く、小売店では安心度の高い北海物に切り替えた矢先に、北海道の台風被害の報道を受けて、手当て買いが強まり堅調相場が続いている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場(福果)の7月の玉葱の販売量は、3,102トン前年比115%(前月比106%)で多かった。主力の佐賀物が前年比半減したが、兵庫を始め長崎、愛媛、北海、ニュージーランド物が前年を大きく上回り、佐賀物の減少をカバーした。佐賀物の入荷は1,032トン前年比54%、占有率は33%で前年比17ポイントダウン。兵庫物は487トンの入荷で前年比1,742%、占有率は16%で前年比15ポイントアップ。長崎物は319トンの入荷で前年比180%、占有率は10%で前年比3ポイントアップ。北海物は405トンの入荷で前年比571%、占有率は13%で前年比10ポイントアップ。平均単価はkg¥148前年比106%(前月比120%)で堅調に推移した。産地別では、佐賀物はkg¥139で前年比92%。兵庫物はkg¥226で前年比123%、長崎物はkg¥143で前年比106%、北海物はkg¥110で前年比96%。となっている。

8月に入り、佐賀物の入荷はほぼ終了したが、特に終盤は品質不良品が殆どで、販売後のクレームが続出し、事後処理に忙殺された。府県物は良品質の長崎、愛媛が週間2~3回の入荷はあったものの、主力は淡路物で高値ながら腐敗が散見されクレームが多く、安心して販売できる銘柄は少なかった。北海物の入荷を待望していたが、台風の影響で入荷は後ズレし、玉葱相場は今も品薄高が続いている。

### 8月25日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

**【札幌市場】** 入荷398トン、強い

北海道 20kgDB2L¥2,800~2,500、L大¥4,000~3,000、L¥4,000~3,300、  
M¥3,000~

北海道 20kgNT2L¥2,600~1,800、L大¥3,700~2,500、L¥4,000~2,900、  
M¥3,500~3,000。

**【太田市場】** 入荷177トン、強い

北海道 20kgDB2L ¥3,000～2,500、L大 ¥3,000～2,500、L ¥3,000～2,500、  
M ¥2,500～

兵 庫 20kgDB2L ¥4,000～3,800、L ¥4,500～4,300、M ¥4,500～4,300。

**【名古屋北部】** 入荷101トン、保合

北海道 20kgDB2L ¥3,300～2,800、L大 ¥3,300～3,000、L ¥3,300～3,000、  
M ¥3,000～2,800。

**【大阪本場】** 入荷96トン、弱保合

北海道 20kgDB2L ¥3,300～2,900、L大 ¥3,800～3,300、L ¥3,800～3,300、  
M ¥3,000～

兵 庫 20kgDB2L ¥3,800～ L ¥4,200～4,000、M ¥4,200～4,000。

兵 庫 10kgDB2L ¥2,200～2,000、L ¥2,500～2,200、M ¥2,500～

**【福岡市場】** 入荷398トン、弱保合

北海道 20kgDB2L ¥3,200～3,000、L大 ¥4,000～3,000、L ¥4,000～3,000、  
M ¥2,500～

兵 庫 20kgDB2L ¥4,500～4,300、L ¥5,000～4,500、M ¥5,000～4,500。

長 崎 10kgDB2L ¥3,000～2,500、L ¥3,000～2,500、M ¥2,800～2,500。

愛 媛 10kgDB2L ¥3,000～2,500、L ¥3,000～2,500、M ¥2,700～2,500。

**供給(産地)の動き**

府県産玉葱の即売物の出荷は、兵庫(淡路)を除きほぼ終了した。今後は北海物が主力で、府県産地は9月後半からは冷蔵物に切り替わる。

北海道では、出荷が軌道に乗り始めた盆明けから、台風7、11、9号と連続して接近、上陸し強風と大雨による被害が全道的に発生した。特に、道東の玉葱産地では、河川が氾濫して冠水、流出の被害が続出、減収・品質劣化が避けられない状況にある。被害情報は錯綜しており、詳細が判明するのは1週間～10日後になりそうだ。何れにしても、作



柄予想は平年作から豊作型に推移していた矢先の風水害で、平年作の確保が懸念されている。

府県産の冷蔵入庫の主力は淡路だが、盆前までの入庫は概ね順調で、前年比90%を確保しており、冷蔵産地の入庫は、15,000トンを上回ると見ている。

輸入は、ニュージーランド、オーストラリアはシーズンオフとなるが、アメリカは出荷が本格化し、中国とアメリカが主力となる。昨年は両国ともに国内マーケットが堅調で、秋冬期の入荷は減少傾向となったが、今年は生育が順調で、オフア価格は前年比安となっているうえに、為替相場は円高で推移しており、此の先、の輸入量は前年を上回ると予想している。

### **府県産地**

主力産地で、即売の在庫は兵庫(淡路)だけになったが、市況高を反映して、既に冷蔵物も併行出荷が始まっている。淡路玉葱冷蔵協会の盆前の入庫調査では、淡路物は13,700トン前年比85%で予想を上回る入庫となっている。また、定点貯蔵調査(吊り小屋、乾燥貯蔵ハウス)では、ハウス乾燥貯蔵で健全球率は84.6%(過去8ヶ年平均91.6%)、細菌性病害の発生率は10.9%(過去8ヶ年平均2.3%)。吊り小屋では、健全球率80.8%(過去8ヶ年平均93.3%)、細菌性病害の発生率10.5%(過去8ヶ年平均2.7%)で、冷蔵物は厳選するものの長期貯蔵には懸念がある。

佐賀では、今年のべと病被害が深刻で、出荷は既に終了している。来シーズンに向けて「べと病対策緊急研修大会」等が開催され、具体的な対策が決議されているが、高齢生産者の間では栽培意欲が喪失し、種子の申し込みは低調で、来シーズンの作付けは20～15%減少する見込みである。

### **北海道産地**

6月の多雨による湿害で懸念された作柄も、その後は順調に回復し、盆明けには豊作型に好転すると見られていた。その矢先に、台風7号、11号、9号と相次ぐ接近、上陸で状況が一変した。現在も不安定な天候が続き、圃場がぬかるみ防除作業が出来ず、高温と水分過多で腐敗の進行が心配されている。圃場が乾かず機械防除が出来ない地域で

は、ラジコンヘリでの防除を推奨している。強風・大雨の被害は地域差があり、詳細が判明するのは9月になる。現在、収穫、出荷作業は停滞しており、軌道に乗るのは9月になる。全道的には、生産量は大きく減少しないと思われるが、品質劣化で商品化率は大きく低下すると見ている。

### 外国産地

7月の輸入は、速報値で、30,090トン前年比98%で増加傾向にある。国別の輸入量は、中国が24,814トンで前年比93%。ニュージーランドが3,202トンで前年比140%。オーストラリヤが926トンで前年比63%となっている。

中国、主力は山東省で甘肅省も収穫期に入っているが、相場待ちで収穫を遅らせている生産者が多い。増反されていることに加え、反収は6トンに達し生産量は大幅増になりそうだ。現在、日本着の浜原価は20kg・ムキ玉 ¥950~900、皮付き ¥800~880。で山東省より甘肅省がやや高い。

アメリカ、今シーズンの貯蔵性玉葱の作付けは増反と生育順調で、現在、収穫中の圃場は、何れの地区も球伸び良く、品質的にも良好だと言う。国内マーケットは50& \$8~6で軟調とのこと。現在の日本向け価格は、50&・C&F・Jサイズ \$11.7、SJサイズ11.25前後の水準である。

### 9月の市況見通し

盆明けには、異常高値続いた夏相場が沈静化し、市況は値頃感水準に向かい、需給は安定化すると予想していたが、相次ぐ台風が北海道産に大きな被害をもたらす見通し難になった。被害の詳細は入手していないが、200~300haの水没・流出なれば、出荷の後ズレもあり、9月の市況は売り手も買い手も値ごろ水準である 20kg ¥2,300~2,200中心で安定化すると予想している。(了)